

1. 自己評価及び外部評価結果 作成日 平成29年12月11日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670800384
法人名	有限会社 精祥
事業所名	グループホームやまぶき
所在地	鹿児島県出水市上鯖洲48-1 (電話) 0996-63-4176
自己評価作成日	平成29年10月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成29年11月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは、介護付有料老人ホームと同一敷地内にあり、広々とした敷地内で、散歩や日光浴、園芸作業などが楽しめる環境にある。近くには、コンビニエンスストアや商店街があり、また出水駅も近く利便性にも恵まれている。

入居者が家庭的な雰囲気の中で、残存機能を活かしながら、一人ひとりのペースで生活ができるよう支援を行っている。生活の中に楽しみの時間が持てるよう、季節に応じた様々な行事を企画したり、ドライブや買い物などの外出支援や、日々のレクリエーションへも力を入れ取り組んでいる。

明るく家庭的で、ご家族が気軽に足を運んでくださるようなグループホームを目指し、接遇面へは特に力を入れている。入居者と職員が一緒に笑い合える、「一緒にふれあい笑顔のある家庭的な暮らし」を理念に掲げ、サービスの質の向上に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○グループホームやまぶきは、同法人の運営する介護付き有料老人ホームの2階にあり、近くにJR出水駅があるほか、スーパーやコンビニエンスストア等もあり利便性のよい立地で、買い物や外食に出かける機会が多い。また、自治会加入や運営推進会議での自治会長との交流、有線放送からの行事案内もあり、地域の夏祭りに参加したり、事業所の行事に参加してもらうなど相互に交流を図っている。

○「一緒にふれあい、笑顔のある家庭的な暮らし」を理念に掲げるとともに年度毎の接遇目標と半期毎の運営方針を掲げ、毎朝唱和することで意識付けを図っている。特に接遇に関しては、馴れ合いの関係から言葉や態度が乱れないよう、職員同士声を掛け合うことで、個々の人格を尊重した接し方に配慮している。

ほかにレクリエーション企画委員や安全拘束委員会、環境委員会や防災対策委員会等多数あり、それぞれに担当者を決め、委員会に参加して各部署への報告を行っている。

○かかりつけ医に関しては、入居後も個々に希望する病院受診ができるよう支援しており、母体医療機関とも24時間体制で連絡が取れるなど連携が図れ、看取りにも十分対応が取れる体制にある。看取りに関しては勉強会を実施し職員の知識と技術向上を図るとともに看取りの指針やターミナルケアの同意を繰り返すこと、本人や家族の思いの変化を確認し、協力体制を構築している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎日、朝礼時に職員全員で唱和し、実践に活かせるよう意識付けている。	理念に加え、職員の心得と接遇目標まで掲示し、意識付けのため毎日朝礼時に読み合わせをしている。また、法人全体の総括会議では、半期毎の運営方針も打ち出し、理念とともに共有を図り、日々実践に向け職員一同取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りには、地域の方を招待している。自治会の行事へも参加しているが、参加できる入居者が限られているのが現状である。	自治会長や各家庭に設置してある有線放送を介して地域行事を把握し、地域の夏祭りや鮎の解禁日に合わせた集い等に参加している。また、中学校の職場体験の受け入れや慰問ボランティアとの交流など事業所の行事にも参加してもらうなど相互に交流を図っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議を通して、情報を発信している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状報告に加え、事故・ヒヤリハットの報告も行っている。会議での意見や要望をサービス向上に活かしている。	会議には家族や自治会長、民生委員や地域包括支援センター職員等が参加し事業所の活動報告やヒヤリハット、事故報告等を詳細に説明し意見交換している。会議は話し合いだけに終わらず、利用者と一緒にレクリエーションに参加したり、おやつを食べるなど事業所の日々の様子の理解につなげている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議へ参加して頂き、また事業所便りも届けている。質問や相談などは、その都度電話等を利用し行っている。	運営推進会議の議事録提出のため定期的に市役所に出向くほか、保護課との情報交換など日々連携を図っている。また、グループホーム協議会や医療センターから行政主催の研修に参加するなど行政との意見交換の場は多くある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	安全対策・拘束廃止委員会を設置し、拘束をしないケアに取り組んでいる。法人全体での学習会に加え、事業所でも学習会の機会を設けている。	安全・身体拘束委員会を設置し、身体拘束廃止に向けたマニュアルの作成や研修会の開催など拘束のない暮らしの実現に日々取り組んでいる。また、馴れ合いの関係による言葉の崩れがないよう意識するとともに、夜間は廊下で記録をとるなど安全のための見守りの徹底に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体での学習会に加え、事業所でも学ぶ機会を設けている。小さな痣でも報告し、対応策を話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者を中心に、外部研修で学ぶ機会を持っている。今後は、職員へも伝達する機会を設けていきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時に十分な説明を行っている。不明な点は、その都度問い合わせてもらえるような関係作りに努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会や運営推進会議で意見や要望を頂いている。また、面会の際にも聞き取りを行い、遠方の家族へは電話で要望等を伺っている。	家族の意見や要望を運営推進会議や家族会等来所時に聞き取るほか、電話による報告等で、こまめな情報交換に努めている。また、3ヵ月毎に作成するお便りを各担当職員が毎回コメントを入れて送付しており、お便りを読まれての意見や感想をもらうことも多い。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月の部署会議で意見や提案を聞いている。個別の相談へはその都度応じ、働きやすい環境作りに努めている。	管理者は日頃から職員の意見に耳を傾けており、利用者への支援方法や物品購入の要望を受けた際には速やかに対応している。また、2年ごとに職員旅行を企画するなど、意見の出しやすい職場環境作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の意識の変化をねらいとして年に1回「個人評価シート」を提出してもらい、人事考課が職員へも見えるようにしている。個人面談にて評価を伝え、意見の聞き取りを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人全体で、新人研修・中堅研修・リーダー研修・管理者研修など、力量に合わせた研修を行っている。外部研修へ参加した際には、伝達講習で他職員へ伝えている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム連絡協議会に加入している。他のグループホームを訪問したり、電話等でも情報交換を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いを傾聴し、信頼関係が築けるよう努めている。思いを伝えられない方に対しては、利用者本位で考えたケアで、安心の確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より聞き取りを行い、プランへ反映させている。入居時には十分な説明を行い、不安なことなどは質問して頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分な聞き取りを行うことで、必要な支援を見極めている。本人に何が必要か、家族と一緒に話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事など、できることは一緒に行い、役割を持った生活が送れるよう支援している。家族のような関係性を築けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状態変化や受診等はその都度報告し、家族へ相談している。行事への参加も呼びかけ、日常の様子を見て頂く機会を設けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外食、買い物など、馴染みの場所へ外出する機会を作っている。地域の行事へも参加している。	家族や知人との面談や電話の取り次ぎ、行きつけの店での買い物や温泉などの要望に職員は快く応じ、個別に希望する外出先に出かける機会をつくっている。これら外出の機会をケアプランに組み込むことで外出の重要性を意識し支援につなげている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で会話ができるよう、座席などの配慮をしている。会話の難しい入居者へは職員が間に入り、良好な関係が築けるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話など、相談があればその都度対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の思いを聞き、ケアに反映させている。聞き取りが困難な場合は、家族へ相談したり、本人の表情や様子などから要望をくみ取っている。	思いをうまく伝えられない場合は、日々の言動や表情から汲み取るとともに家族の意見も参考にしている。把握した情報は申し送りノートに記録を残し、申し送り時や部署会議等で情報の共有を図ることで今後の支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や面会の際に家族から情報を聞き取っている。サービス利用の経過については、関係機関からの情報提供も得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのペースで生活できるよう支援している。変化があれば報告し、職員が現状を把握できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員からの気付きは、部署会議を中心に挙げてもらっている。本人・家族からの要望も聞き取り、プランに反映させている。状態変化があれば、家族へも相談し、見直しをしている。	利用者・家族の意見や要望を聞き取り、定期的にカンファレンスと評価を実施することで詳細に状態を把握している。また、ケアプラン作成には受診時等に知り得た医師や看護師からの情報も参考にしたり、状態に変化がみられた場合はケアプランを見直し、現状に即したものに作り直している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>記録と介護計画を同ファイルに綴ることで、プランに即したケアが実践できるよう努めている。状態変化は漏らさず記録に残している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人や家族からの要望に合わせた、柔軟な支援を行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の行事への参加や、買い物、温泉などの外出も支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>協力医療機関へは、月2回の往診を依頼している。希望のかかりつけ医を望まれる方へは、受診支援を行っている。</p>	<p>入居前のかかりつけ医を把握し、入居後も個々に希望する病院を受診できるよう支援している。母体医療機関とは24時間体制で連携しているほか、往診を受けている利用者もあり、日々の安心につながっている。受診の報告は生活日誌等に記録し、申し送り時に情報共有を図っている</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>状態変化や気付きは、その都度看護職員へ報告している。日々の健康観察に努め、変化を見逃さないようにしている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>面会時や、電話などで情報を得ている。早期の退院に向けて、家族も含めて相談を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に、看取りに関する指針を説明し、同意書を交わしている。状態変化があり、看取りとなった場合は、家族や主治医との連絡を密にしながら支援している。看取りについての勉強会も行っている。</p>	<p>入居時に「看取りに関する指針」を説明し、入居後も状態の変化に伴い再度指針を確認している。また、看取りの意向を確認した時点で「ターミナルケアの同意と経過記録」を説明し同意を得、医師や看護師との連携、研修会での知識や技術の向上を図りながら、最期まで家族の一員として支えている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>学習会や、部署会議で学習する機会を設けている。緊急時や事故対応のマニュアルも作成している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回、併用施設と合同での防災訓練を実施。防災対策委員会を中心としてマニュアル、組織図も作成。備蓄品や、防火設備の点検も定期で行っている。</p>	<p>夜間想定を含む火災水害訓練を併設事業所と合同で実施するほか、2カ月に1回消火器の点検や避難経路の確認等自主訓練も実施している。飲料水や食料等の備蓄に関しては、併設の介護付き有料老人ホームで一括して管理しており、備品を含め2カ月に一度万が一に備え点検している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇についての研修や学習会を行っている。接遇委員会を中心に、職員間で注意し合える関係を作り、職員本位での対応にならないよう努めている。	接遇に関しては法人全体で取り組んでいるところであり、年度毎に立てた目標を毎朝唱和している。利用者とは馴れ合いの関係ではなく、尊厳をもった接し方ができるよう職員同士気を配り対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人からの訴えを傾聴している。常に声掛けを行い、自己決定を促し、思いの表出が難しい方は、表情などを観察し思いに寄り添っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせた生活を支援し、業務優先にならないように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	散髪、髪染めなど、希望に応じて対応している。入浴時には、一緒に服を選ぶなど、本人の好みを伺っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえなど、できることを手伝ってもらったり、味見をお願いしたりしている。茶碗やテーブル拭きも依頼している。	利用者は食器拭きや台拭き、野菜の皮むきなどの下ごしらえを職員とともに行っている。食べたいもののリクエストに応えたり行事食の提供や外出に出かける機会を多くつくるなど食事の時間を大切にするとともに、家庭的な雰囲気になるよう気を配っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	硬い物は刻んだり、ミキサー食での対応など、本人に合わせた食事形態で提供。水分摂取も細目に促している。		
42		○口腔内の清潔保持	状態に応じて、見守り、仕上げ磨きなどの支援をしている。うがいが困難な方へは、ガーゼ等を使用したケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意・便意のない方へは、日中は定期的なトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を促している。排泄チェック表を利用して、排泄パターンを把握するよう努めている。	日中はトイレでの排泄を基本とするなどおむつを外す努力をしており、排泄の訴えのない方については、排泄チェック表を参考にしたり、トイレに行きたい素振りを見逃さないよう普段から様子観察に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、牛乳を提供している。食物繊維の多い食品を使ったり、水分摂取量が少ない場合には細目な摂取を促している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	時間を決めず、本人の要望に応じて入浴を行っている。拒否のある方へは、時間を置いて声掛けするなど、無理強いしない対応をしている。	入浴は午前中であればいつでも可能であり、シャワー浴や足浴等も希望に応じて実施している。また、ぼんたん湯を楽しんだり、希望があれば温泉にも出かけている。入浴後の皮膚ケアや水分補給にも気を配り対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の訴えや、状況を見ながら休息への支援を行っている。共有部分の畳部屋で休んで頂くこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変化があれば、申し送りノート、日誌を通じて周知している。職員同士で確認しながら服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のレクリエーションに加え、ドライブや外出などの支援をしている。併用施設と合同での行事も企画している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	温泉、外食など、本人の希望に合わせた支援を行っている。季節を感じて頂けるような外出プランも企画、実行している。	初詣や花見、ソーメン流し等季節を感じられる行事を企画し出かけるほか、地域の夏祭りに参加したり、温泉など個々に希望する外出先にも出かけるなど、急な要望にも臨機応変に対応している。また、天気の良い日は散歩やドライブに出かけるなど普段から自由な外出を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で財布を持っている方は、買い物の際、支払いを自分でされている。家族からの預り金は管理者が管理し、買い物や外食などの際に使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話の希望があれば、対応している。家族が気軽に電話をかけられるような雰囲気作りに努めている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な雰囲気になるよう、季節毎の飾りも工夫している。居心地良く、安全な空間になるよう、座席や家具の配置もその都度検討している。	フロアには季節の作品や写真が飾られており、日頃の生活の様子や活動内容がよくわかる。また、ソファが多く、畳スペースもあり、日常の憩いの場となっている。手すりの消毒や掃除等は毎日朝礼後に職員が実施するなど感染症の対策も含め衛生面には十分気を配り対応している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ席、テーブル席、畳など好みの場所で過ごせるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>馴染みの物を持ってきて頂いたり、本人にとって使いやすいよう工夫して支援している。安全面への配慮も行っている。</p>	<p>8畳以上はありそうな広い居室にはエアコンに電動ベッド、クローゼットが備え付けられ、自宅で使っていた馴染みの品を自由に持ち込み、動線等安全にも考慮した居室づくりがなされている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室のネームプレートやトイレはわかりやすく表示している。ポータブルトイレの設置や、居室へ畳を敷くなど、一人ひとりに合わせた工夫をしている。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない